

外国人研究者	王一茹		
Foreign Researcher	Wong Yat Yu		
受入研究者	何彬	職名	教授
Research Advisor	He Bin	Position	Professor
受入研究科	人文科学研究科		
Graduate School/Department	Graduate School of Humanities		

<外国人研究者プロフィール/Profile>

国籍	香港
Nationality	China (HongKong)
所属機関	北京師範大学珠海分校
Affiliation	Beijing Normal University, ZhuHai
現在の職名	講師
Position	Lecturer
研究期間	2017年7月10日—2017年8月11日
Period of Stay	July 10th, 2017 - August 11th, 2017
専攻分野	社会人類学
Major Field	Social Anthropology



研究者

<外国人研究者からの報告/Foreign Researcher Report>

<p><b>①研究課題 / Theme of Research</b></p> <p>本研究の課題は、日本社会における若い華僑華人文化的アイデンティティの構築について民族教育と関連づけながら論じる。若い華僑華人の文化的アイデンティティ志向と、その現状に関して、中華学校生徒と教員の「語り」を経由しながら、日本社会における多文化共生について調査する。</p>
<p><b>②研究概要 / Outline of Research</b></p> <p>筆者は博士論文の副査教員（何彬教授）と共同で博士後期課程の研究課題について継続的に調査を行った。本研究は、異文化接触状況での人間形成に関わる教育人類学的研究や、文化的アイデンティティ、及びマイノリティへの民族教育研究に焦点をあてている。教育人類学の中心的概念は「文化化」であり、個人は文化を内面化して社会の与えてくれる役割や機能を受け入れ自己規定することである。アイデンティティは固定的永続的なものではなく、複数のアイデンティティが共存することが可能である。中華学校の生徒は親や親戚の背景から固定な文化を継承することのみではなく、継続的に学校の教育を含む日常生活の中に自己確認を行わっている。本研究はそのアイデンティティを形成する過程の一部として、多文化教育を調査する。</p>
<p><b>③研究成果 / Results of Research</b></p> <p>短期研究期間において、四つの成果を達成した。一、博士論文の調査地を再度訪問してその後の変化を調べ、生徒10名及び教師5名との聞き取りにより自分の研究結論を検証した。二、華僑華人研究者（早稲田大学陳天璽教授）を訪ね、異文化適応及び文化の越境に関する研究情報を交流した。さらに、中華学校の日中交流会、首都大学東京で開かれた日中箸の文化座談会、及び日中社会学会の国際研究交流会（現代中国農村研究会）を参加し、日中社会文化研究者たちとの交流を多角的に展開できた。三、国会図書館など通り、最新の英語及び日本語の資料を入手し、研究動向を把握した。四、関東以外（具体的に、長崎と神戸）の中華街を訪ね、華僑華人と関連する博物館（神戸華僑歴史博物館と長崎孔子廟・中国歴史博物館）などで研究テーマと関わる資料を集まった。</p>
<p><b>④今後の計画 / Further Research Plan</b></p> <p>今後、引き続き何彬教授と共同で日本における華僑華人民族教育を研究する。 今までの研究結果によると、中華学校は、中国語や中国文化を中心とした中華民族の教育を行う教育機関であり、華僑という集団の中華民族性を育成することを目指している。しかし、中華学校の教員たちは台湾の歴史と中華伝統を強調しながら、多文化を理解している国際的人材を育てることを目指している。今まで論じた観点は教員たち及び授業観察から得たデータを分析したものが、今回は視点を変わり、中華学校の生徒としてのインタビューしたデータを分析し、論文の発表を計画する。さらに、今回は博士論文の研究範囲（横浜中華街）より視野拡大して日本全土を研究視野に入れる予備調査を行ったため、今後は日本華僑華人教育の歴史と現状をより広く範囲で研究する。</p>
<p><b>⑤東京と海外諸都市との相互理解・友好親善関係の推進についての計画 / Further Plan of Contribution of Strength of Mutual Understanding/Friendship Between Tokyo and International cities</b></p> <p>筆者は2014年9月に首都大学東京で博士号を取得し、現在、中国廣東省珠海市の北京師範大学珠海分校で講師として勤めている。短期研究期間において、関東地区の華僑華人（中華学校の生徒と教師）の現状を調査した。その資料に基づき、将来は何彬教授との共同研究を継続し、廣東省広州市と珠海市の帰郷した華僑華人の多元社区を調べる予定している。華僑華人の研究を通じて、東京と広州市、珠海市との相互理解を深まることで、友好関係を築き、互いに繁栄、発展をできる未来を目指す。</p>

<受入研究者からの報告/Research Advisor Report>

**①研究課題 / Theme of Research**

今回の研究課題は、『日本社会における華僑華人の若い世代の文化的アイデンティティの構築に関する研究』である。この課題は、本人の博士論文の研究テーマの延長であり、本人のずっと関心を持ち続けている研究テーマである。日本社会における華僑華人の若い世代の文化的アイデンティティの構築の分析を通して、彼らの文化的アイデンティティ志向と、アイデンティティ形成上に影響のある要素や社会的環境など問題の所在を、聞き取り調査を通して現状を把握するのが、今度の中心テーマである。手法として、日本にある中華学校の生徒と教員への聞き取りで、かれらの「語り」を経由しながら、日本社会における多文化共生について調査し、問題の所在を見出して、把握する。

**②研究概要 / Outline of Research**

日本社会における華僑華人の若い世代の文化的アイデンティティの形成には、民族教育と関連づけられるし、アイデンティティ形成上に影響のある家庭／親から期待や要求の諸要素や社会的環境などにも大きく関連するため、華僑華人の若い世代の文化的アイデンティティ志向形成の環境と、教育現場の現状の把握がとても重要である。かつて調査を行っていた中華学校において生徒と教員の「語り」を手掛かりをして、調査をさらに深く実行するように指導した。

**③研究成果 / Results of Research**

本人がかつて博士論文の調査地を再度訪問し聞き取り調査を行った結果、博士論文の結論を検証できた。また、華僑華人文化の研究者との交流で、異文化適応及び文化の越境に関する研究情報を得られた。調査先中華学校の日中交流会や首都大学東京で開かれた日中箸の文化座談会、及び日中社会学会の国際研究交流会（現代中国農村研究会）の参加の実現は、来日しないとできないことで、研究者や関係者たちとの交流を多角的に展開できて、今後の調査と研究のためのネットワークを形成している。更に、最新の英語及び日本語の資料を入手したことで、グローバルな研究動向を把握できたようである。この研究結果により、今後の多元的共存社会の構築に新たに建設的な提案を提示することができる。

**④今後の計画 / Further Research Plan**

今回の調査の収穫と入手した文献資料をよく消化するうえで、文字化・論文化にする予定である。学会での研究発表と投稿を進め、具体的に話をしている。今後は、引き続き日本における華僑華人の若い世代への民族文化・民族アイデンティティ教育に関する動向に関心を持ち、調査、研究を継続的にすることも計画している。



陳天璽教授との写真